



表紙の写真
「甲州雨畑硯」

山梨県早川町、鯉沢町で生産されている雨畑硯。中国硯にも勝る良硯として文人墨客の間にもてはやされている硯の最高級品だ。

硯づくりは、鑿（さく）を使っての手作業で進めていく。硯匠はまず石の善し悪しを選別し、次に角形や円形などのデザインを決め、鑿（さく）で大まかに表裏を平らにする。そして、鑿を肩にあてて体全体の力で彫り進める。彫りの次は、荒目、中目、細目といった人工砥石で磨いていく。そして、最後に墨液、うるしを薄く塗って完成となる。

現在では、原石、硯匠ともに減少したが、その希少価値ゆえに、多くの書道愛好家に高く評価されている。

おかげさまで創刊して10年・30号を迎えることができました。これからもご支援のほどお願い申し上げます。

「MUH」vol.30 2004.4.1
企画／早野グループ「MUH」編集室
深沢進・矢田道生・坂本孝治・望月賢・樋口明美・赤池さおり
編集／株式会社ニュースメディア甲府
三神弘・三井君男／高山ひとみ／千野和美／相川礼子・荻野由香／宮塚利雄・杉村聡／浅川毅・標克明・永田宏
印刷／株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMate（仲間）Union（結束）Harmony（調和）の頭文字からとりました。幻のムー大陸のロマンを目指します。

フォーラム	2
テーマ 花見 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤眞佐美	
対 談	
山梨21 中村 文明 氏 多摩川源流研究所所長 全国源流ネットワーク代表	4
多摩川源流の春 遊ぼう、学ぼう、体験しよう 溪谷の素顔を訪ねる ホスト 早野 潔	
トピックス	10
鶏インフルエンザに怯える東南アジア 宮塚利雄	
ウォッチング	11
競輪場外車券売場 サテライト双葉	
サークル訪問	13
甲州相撲甚句会	
セミナー	14
季節を感じて、心地よく暮らす 深谷百合苗	
山梨の伝統工芸	15
甲州雨畑硯「雨畑硯」	
インフォメーション	16
やさしい手甲府・早野組・トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運・ロード	
歴 史	18
大井夫人 上野晴朗	
美 術	20
ボク的美術品観察日記23 山本育夫	
BOOK こんなところに山梨… BOOKコーナー 「日用散策」	22
お茶の間の民俗学（21）	
一ふるさと意外史（2）一 志摩阿木夫	23
名峰からの富士山	24
飛竜山 上野 巖	
甲府通運前史を訪ねる（23） 林陽一郎	25
ユーザー訪問	26
株式会社 インテリアさの	
お家拝見	27
古屋 賀清・政広さん	
ときのひと・FACE	28
auショップ田富店長 小池 志穂さん	
やさしい手甲府	29
介護保険情報	
おしゃれ ファッションブラザちの たべる THE VAULT	30
コラム	31
某月某日 杉村 聡	
ロードのページ	32
甲斐の細道 「日本武尊東国征伐凱旋の道」 若林賢明	

江戸の桜

江宮隆之

花見

江戸の桜は上野、向島、飛鳥山、御殿山と相場が決まっていた。江戸っ子は「上野は高尚、向島は粋、飛鳥山は野暮で、御殿山は野卑」と呼んで区別した。

上野には寛永寺があって静かで風雅。向島は隅田川の堤に小料理屋が立ち並び、芸者などの三味線も聞こえる小粋な場所。

では、どうして飛鳥山は野暮なのか。実はここが一般庶民の花見の場所であったからだ。さしずめ落語の「長屋の花見」は、こころしい。

もう一ヶ所、御殿山は野卑、というのはすぐ近くに品川遊郭があったためだといわれるが、真相は不明。

上野には観音堂裏に一本の枝垂れ桜があり、優美な赤い花を着けた。江戸が始まって六、七十年も経った頃のことである。

日本橋の菓子屋娘・お秋がこの桜を見てこう詠んだ。「井の端の桜あぶなし酒の酔」。この句が浅草寺住職・法親王の目にとり、秀句であると称賛された。

お秋は十三歳。桜はその名前を取って「秋色桜」と命名された。この桜、今も何代目かが毎年花を着ける。

桜か桃か、花相撲

古屋久昭

春の行楽と言えば先ずは花見であろう。その花見も桜と決まっている。桜は日本の国花であり、花の中の花、古来から花の女王であった。

桜は今でも他を寄せ付けない抜きん出での女王であることには違いないが、私の住む周辺では少し様子が変わり始めている。桜に代わって桃の花が花見の主役になりつつあるのだ。

むろん満開の桜の下で酒を仰ぎ、酔いに興じて歌い出す者、踊りだす者数々あれど、虎視眈々と散り急ぐ桜を見届けながら、自分の出番をまっている桃の花のほうが圧倒的に多いのだ。

ここ関東地方の畑という畑には桃の木が生活の収入源として狭しと植えてあるのだから、ところどころに散在している程度の桜では、画的スケールにおいてとても勝負にはならない。

4月始め、一斉に咲き出す桃の花のそのさまは、目には鮮やか、まさに辺りはピンク一色である。

この数年、気象も温暖化してきて、そのため、「桜、少し間を置いて、桃」という開花時期もあやしくなってきた。桜と桃がほとんど同時に咲いているなんて

さて、元禄時代になると花見客は、花見もさることながら女たちの小袖比べになったという。誰よりも豪華に美しく、の衣装競べであった。花見の雨に濡れても敢えて傘を差さずに濡れるに任せるのを格好いいと、自慢にしたというから面白い。

この花見。江戸も中期以後になると、場所によっては歌や踊りはよいが、琴、三味線の鳴物は禁止、喧嘩、口論の類は絶対に許されなかった。役人が警戒にあたる所もあって、やや窮屈な思いもした。

花見には秀句がたくさん詠まれているが、昭和の秀句ではこれが一番。

「花衣ぬぐやまつわる紐いろいろ 杉田久女」
花見に行く女性が、あれを着ていこうか、これにしようか、と迷いに迷う。着物に合わせて帯紐もいろいろ出してきて…。

花見の宴、男は酒で騒いで時には喧嘩。女は色とりどりにファッションを競う。

やれやれ、今も昔も変わらぬものは人間のようなはある。

いうこともあったりするのだ。おまけに咲いている期間は桃の花のほうがはるかに長いとくる。

勢いづいて毎年我が御坂町では町を挙げての「桃の花まつり」が盛況である。県内はもちろんのこと関東近辺からも花見客が来るわ来るわである。

そうなると私も地元にて、そ知らぬ顔もしてられない。ある時、「御坂・桃の花見会」と銘打って、文化系の友人を招いて花見会を催した。

「いいところに住んでるねえ」
当然ながら皆さんは異口同音に言うのである。

花見会に参加してくれた一人、舞踏家の田中浜さんは、巨杉の木の下に立ってしばし腕を組む。その姿は、桃の花とまだ咲き散っていない桜とそして眼下に広がる甲府の盆地を背景にして、一つ踊ってみようか、とひそかに構想を練っているかに見えた。

いつか浜さんの踊りが実現できたらと、私もその日を楽しみにしている。その時花吹雪を一身に浴び、浜さんはどんな踊りを見せてくれるだろうか。

併せて隣同士で咲く桜と桃の一対一の花喧嘩、こいつもじっくり見たいものである。

春はサクラ

岩崎正吾

春は花見だ。花見といえばサクラ。よって、春はサクラということになる。そのせいか、脅迫観念にかられるようにサクラの花見に出かける。まるで春になると盆地のサクラ全体が、おれたちを見ろ見ろと叫びたてるような気がする。

わたしは50近い年齢になって自動車の運転免許を取った。その年の春はうれしくて、一人で車に乗ってサクラを見にあちこち行った。ある日、国道を長野方面に向かって走っていて、韭崎でものすごい一本ザクラに出会った。何だ、ありゃ…。初めは目の錯覚かと思った。そのくらい強烈な印象だった。

車の向きを変えて、この樹に接近してみる。車を止め降りて、さらに驚いた。折しもサクラは満開。頭上に枝は雄大に伸び、太い幹にびっしり花が付いている。幹に近づくと、体ごと花に包まれてしまうような気になる。世界がサクラ一色になり、じっと立っているとめまいを起こしそうになる。サクラの樹の下には死体が埋まっているのも、花の満開の下では人は気が狂うのだということも信じたくなった。

しかし、これほどの樹で、しかも見ごろなのに、見

ベーローシャーノ マカボダラ

佐藤真佐美

四月、コブシの香りが堅雪の原野に漂う。これが北海道でもっとも早く咲く花だ。ウメはない。五月下旬、サクラ、タンポポ、ツツジにスズランと、あらゆる花がどっと咲く。知床の春は遅く短く、なにもかもいっぺんにすませようと慌てふためく。

JRの上札鶴駅から私の生まれた家まで、徒歩で15分あまり。5、6分歩くと、札鶴(サックル―乾いた夏の道)川の岸辺に出る。サックル橋を渡って数分で我が家だが、そこから先は人家がない。

橋のたもとに、数十本のサクラの木に囲まれた、十坪ほどの堀立て小屋がある。室内の正面に金色の阿弥陀如来像が鎮座し、両脇に花輪が飾られ、線香の匂いがしみこんでいる。「観音さん」と通称されるこの建物は、開拓地の婦人たちの憂さ晴らしの場であった。仏教徒であろうとなかろうと、年に数回食事を持ち寄り、一見信心深そうにお経を唱えご詠歌を吟じ、その日一日を男衆の公認で暇潰し。サクラが満開の時期になると、ドブクロなどが持ち込まれ、皿小鉢がチャンキキ弾みだす。

「ほれ、越中衆の番だよ」「相馬衆も負けるな」

「お次は南部衆だ」「出羽衆はどんとこい」

それぞれ津軽衆(青森県全体)、出羽衆(秋田・山形)、伊達衆または仙台衆(宮城)、相馬衆(福島)、南部衆(岩手)、越後衆(新潟)、越中衆(富山)などと出身地の旧国名で呼ばれ、じょんがら節、佐渡おけさ、相馬盆歌、花笠音頭、米山甚句などなど、お国自慢がいい喉で披露される。

開拓地の生活は厳しい。ことに女性の苦労は想像を絶する。鬱積したなにもかをも、このときとばかりに吐き出して、ひとときの慰めとする。加えて馴染みの歌を口ずさみ、捨ててきた故郷の追憶に浸るのである。

子どものころ私は、祖母に連れられ、観音さんへ何度も足を運んだ。普段うちでは食べられないご馳走にありつけるのが魅力だった。まずはじめは、かしこまってお経を唱える。足がしびれてくるが、あとの食べ物を想像すると苦にはならない。「ベーローシャーノマカボダラ」は、当時唱えたお経の一節であり、なぜか今はアーメンと唱える。

江宮隆之■
1948年、山梨県増穂町生まれ。第13回歴史文学賞、第8回中村屋湖賞受賞、著書に『白磁の人』『一葉の雲』『武田勝頼 花の歳月』『女たちの新選組 花期花会』『真田幸村』『真田昌幸』など

古屋久昭■
1943年御坂町生まれ。日本現代詩人协会会员、日本現代詩歌文学館評議員、詩集に『落日探集』ほか、童謡集に『虫はく花はく』 エッセー集等

岩崎正吾■
1944年甲府市生まれ。作家、山梨ふるさと文庫代表、現在、1冊でも本のつくれるオンデマンド印刷機を山梨に導入しようと奮闘中、また、インターネット上で作家、出版活動しようとする模索中。今春、新作ミステリー『探偵の冬』が刊行され、同時に『探偵の秋』が文庫化される

佐藤真佐美■
1939年北海道生まれ。日本児童文学者協会、日本児童文学協会、児童文学者協会、著書に『怪奇!大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)近著に『シレットのシルバー』(草炎社)『山梨の童話』(リブリオ出版)など



早野 潔

中村文明 氏

ゲスト

なかむら ぶんめい
中村 文明 氏

多摩川源流研究所所長
全国源流ネットワーク代表
1947年宮崎県生まれ 塩山市在住

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

全国屈指の水源林と清流 多摩川「百年の計」の遺産

早野 多摩川は塩山市の山奥を源に、東京湾へと流れていきます。長い旅ですね。

中村 全国的にも顕著な都市河川で、流域には546万人が生活しています。私達が「最初の一滴」と呼んでいる多摩川の源は、塩山市の笠取山、標高1,953メートルです。そして138キロを流れ下って、東京湾に辿り着きます。

多摩川の特徴は、山梨県に源流域があるということが一つ、それから、塩山市、丹波山村、小菅村、東京都の奥多摩町と、1市1町2村にまたがる21,635ヘクタールという広大な水源林をもっているということです。

早野 豊かであり、貴重ですね。日本屈指の水源林といってよいでしょう。

中村 東京の第2代の市長であった尾崎行雄が「給水百年の計」ということをおっしゃって、明治34年に自ら率先して踏査をされ、水源林の取り組みをはじめました。

早野 偉大なる政治家ですね。勇断でありますし、先見性があります。ワシントンのポトマック河畔の桜並木は今日よく知られていますが、国際親善のために桜の苗木を何千本と贈ったのも尾崎行雄ですよ。

中村 「百年の計」は、多摩川流域の人びとに大きな財産をもたらしてくれました。全国各地の源流を視察していますが、森と清流の組み合わせでいえば、多摩川は全国でも五本の指に数えられるでしょう。

早野 戦後、国有林をはじめ、いたるところの山が伐採されましたからね。やがて、経済的価値がないことから林業も低迷し、山は荒廃してきました。

中村 ところが多摩川は、水道水源林であったことから、伐採をまぬがれました。管理も行き届いていましたから、緑豊かな森林が残されました。

早野 その多摩川の源流に、今年も春がめぐってきましたね。源流の春は、どんなでしょう。

中村 新緑の季節がいいですね。芽吹きときの輝き、生命力、躍動感はたとえようがありません。新緑のもっとも美しいのは、3日か4日ほどですが、身体が染まるほどです。

逆光で眺める色合いは格別で、緑ばかりでなく、茶もあれば、赤、黄と、多彩で、かつ、細やかです。やがて山肌を、赤紫のミツバツツジが彩っていきます。

早野 先生は、カメラマンでもいらっしゃいますよね。

中村 逆光の新緑は、何百枚と撮影しましたが、まだまだ、自然の美しさをそのまま切り取ることはできません。

早野 源流の自然は、どのような動植物を育んでいるのでしょうか。

中村 大菩薩の周辺が亜寒帯植物と温帯植物の南限、北限で、多様な表情を見せています。モミヤツガの林があれば、タケカンバや、ブナ、ミズナラの林があります。

早野 標高にともない、自然林が形成されているのですね。巨木もあるのでしょうか。

中村 幹周りが3メートルを超えると巨木というのですが、こうした巨木が、標高1,500メートルの辺りに群

生しています。森林生態系を研究している専門家によると、首都圏近くでこれほど広範囲に植生している例はないといえます。

早野 お住まいの塩山市から、小菅村の研究所へ通われる道では、動物達との楽しい出会いもあるのでしょね。

中村 頻繁に出会うのはタヌキやキツネで、リス、サル、イノシシ、シカなども顔なじみです。会いたくないのはクマですが、ぼったり出くわしてしまうこともあります。

早野 危険ではないですか。やあ、こんにちは、というわけにはいきません。どうされました。

中村 昨年の11月にぼったり出くわした時には、クマもびっくりしたのでしょう、逃げていきました。青年期の精悍なクマで、毛並みがつややかで、また、駆けていく早さには驚きました。

早野 いったって健康なのは、豊かな自然環境で育っていることのあかしですね。ドングリも栄養たっぷりなのでしょう。

中村 多摩川源流は、元気な森です。

13の滝の連続「竜喰谷」 探索で「源流絵図」刊行

早野 多摩川の源流との出会いは、いつのことですか。

中村 今から21年前、1983年の春のことで、山菜採りがきっかけでした。山菜の王様はタラノ芽といわれますが、山ウドの新芽の天麩羅というのは格別です。185度から200度ぐらいの高温の油でさっと揚げ、ピミサンを温かくしたつゆで食べるのがコツです。

山ウドは標高が高い所であればあるほど、寒暖の差があればあるほどに、独特の苦味と風味が増していきます。多摩川の源流は、山菜の宝庫でもあります。

早野 美味しい出会いであったわけですね。やがて、山野草に惹かれて、カメラで撮影をされるようになりました。

中村 ヤナギラン、ヤマオダマキ、サラサドウダンなど、表情の豊かさに誘われていきました。

1994年8月に「多摩川源流サミット」が計画され、写真展を依頼され、このときから、源流の撮影が本格化しました。そうしたある日、私の人生を変えることになる谷と遭遇することになったのです。

その名を「竜喰(りゅうばみ)谷」といいます。

早野 神秘で、雄大な谷の姿が、目に浮かんできます。

中村 奥深い、切れ込んだ谷で、13もの滝が連続しています。その日から、竜喰谷へ通い詰めるようになりました。

源流へと辿っていくと、幾つもの滝に出会います。どの滝にも、淵にも、名前がついています。村の人たちに名前の由来を教えられ、交流するうちに、源流の暮らしや、技術、伝承にも関心をもつようになっていきました。

早野 どんな滝があり、どんな伝承があるのでしょうか。

中村 「精錬場の滝」というのは、滝の周辺に金山があったことに由来します。金鉱を求めて試掘した穴が、今もあちらこちらに残っています。



「ヤソウ小屋滝」は、かつて良質の檜が産出した地にあり、ヤソウ爺と呼ばれる木こりの小屋があったことに由来します。「イオ止め滝」のイオというのは、土地の人たちの魚の通称です。この滝の上にはもう魚はいない、ということから名づけられました。

早野 写真撮影をしながら、こうした谷や滝の分布を調べ、淵や沢、尾根や小字の名称、その由来を聞き取ることに熱心になられていったのですね。

こうして、「多摩川源流絵図」が編集、刊行されました。これまでどんなものならなかったお仕事です。きっと後世に伝えられ、源流の貴重な案内書になることでしょう。

中村 源流とは、川の源であることを超えて、日本人の生活や文化、歴史の源であり、また、源流には、自然や動植物、人間の営みの原風景があります。

源流通い5年間で420回「多摩川源流絵図」刊行

早野 「多摩川源流絵図」は、まさに多摩川の流れのように、最初に「塩山版」から刊行され、いまでは「小菅版」が刊行されています。拝見しますと、綿密に山や峠が記され、幾筋もの川が出会い、集まり、多摩川が形成されていくようすが一望できます。

谷の名前、淵の名前が、ことこまかに記されています。地名や由来を紹介し、人の暮らしや、大切にしてきたものがわかるように表現されています。鳥や植物の生息も知ることができます。丹念な踏査がうかがえます。ご苦労が多かったことでしょうね。

中村 最初の「塩山版」の地図を編集するにあたっては、5年間で420回ほど源流に通いました。地域の人

に可愛いがって頂けたことも幸いでした。釣り人として村に入ったのなら、きっと警戒されたことでしょう。早野 この「千工(せんぐ)の滝」に目を引かれます。何かいわれのありそうな、珍しい名前です。

中村 険しい谷を25メートルほど、一気に流れ落ちる豪快な滝です。しかし、上流で伐り出した木材を運搬するには、難所です。そこで昔の人たちは、ここに修羅と呼ばれる運搬用の設備を作り、木材に傷が付かないように工夫しました。

この運搬のために、千人の工を必要とするほどだった、という意味です。はじめてこの滝の名を耳にし、かつ、いわれを知ったときには、「千苦の滝」と覚えてしまったほどです。早野 人との出会いがいいですね。村の人たちはきっと、先生を「源流の語りべ」として認め、期待を寄せるようになったのだと思います。

中村 85歳になろうという釣り名人

がいましたが、この方は、4人の子供を魚釣りで立派に養いました。村を流れる30を超える滝や淵を、まるで昨日歩いてきたように話してくれました。滝の名を口にするときの、畏怖の念も、伝わってきました。

早野 自然に対する、人間の本来の姿でしょうね。いい出会いを重ねましたね。

中村 知りたいと思えば、会うべき人は姿を現わしてくれるのだと、縁の不思議さを感じます。

笠取山の麓「最初の一滴」全国唯一、源流への登山道

早野 多摩川の源流の「最初の一滴」というのは何処でしょう。

中村 塩山の笠取山の、水が干すと記して、「水干(みずひ)」というところですよ。これも土地の人たちの呼び名です。下流から川をさかのぼって、水の行き止まり、という意味でもあるのでしょう。沢の奥で、

普段は干し上がっています。したがって「最初の一滴」は、めったに見られるものではなく、確率は30パーセントです。

この「最初の一滴」は、草の葉先を伝わってきて、脹らんだかと思う間もなく、一瞬のうちに落ちます。何百枚と撮影をしましたが、全てしずくは楕円形になってしまいます。これぞ一滴、と満足できる写真が撮れたのは、通いはじめて6年後のことでした。

早野 川の誕生の瞬間に臨場できるというのは、感動でしょう。大自然の母なる一滴です。どんな味わいでしょう。

中村 運がいいと、ポタッ、ポタッと落ちてきて、手に受けて飲むと、冷たく、甘味があります。ああ、多摩川が自分の身体を流れていく、と感激します。

早野 「水干」までは、険しい道のりですか。



中村 幸いなことに、登山道が整備されています。2時間15分ほど歩くのですが、足腰が丈夫ならば、どなたにでも、ご家族でも登れます。全国に109ある一級河川のなかで、「最初の一滴」を誰でも見ることができるのは、多摩川だけです。

早野 そして、ひとりの感動を、大勢の人たちの感動にしようと、1994年に「多摩川源流観察会」を発足されました。やがて、「多摩川源流体験ツアー」に発展していききましたね。

中村 塩山市の教育委員会と企画しましたが、山梨県に住む人は、多摩川は東京の川であり、源流域が山梨県にあるということを知りません。コースは、源流を歩き、笠取山に登るのですが、好評で、毎回30人の定員を超える人気となりました。

子どもたちと「体験教室」 森林の再生事業にも着手

早野 「多摩川源流研究所」の設立に参加され、所長になられたのは2001年4月のことですね。

中村 源流の調査研究を本格化し、子どもたちに源流の豊かな自然と文化を伝えていきたい、また、源流と、多摩川流域の交流事業を進めたい、というのが目的です。

早野 県境を超えて、共感の輪が広がっていますよね。ことに「源流体験教室」には、山梨の子どもたちばかりで、瑞穂、昭島、日野、多摩、三鷹、調布、太田、川崎などをはじめ、多摩川流域の子どもたちが参加するようになりました。

中村 「源流体験教室」は、源流の険しい谷を、自分の力を信じて、危険や怪我を乗り越え、自分の道は自分で歩くのだという力を身につけ、また、自然環境への理解を深めています。

早野 身近なところに、こんなに素

晴らしい自然がある、というのは驚きでしょうね。川のなかを歩くこと、水の流れの変化、水の力、水の冷たさなど、一つ一つが新鮮な体験でしょう。水道の蛇口から出る水しか知らなかったのでしょうかね。

先日の新聞では、新たに「自然再生協議会」の設立が報道されていました。どのようなご計画ですか。

中村 多摩川流域の自然を守って、いこうというもので、ボランティアの協力を得て、採算の合わないために荒廃していた森を再生し、育てていきます。

早野 高度成長時代には鮎も住めなかった多摩川でしたが、近年は100万匹が遡上するようになりました。

中村 多摩川流域全体として、源流を保全していきたいです。

早野 まさに「最初の一滴」ともいえるべき、尊いお仕事ですね。

〔構成：三神 弘〕



DATA

源流にこだわった むらづくり

小菅村は、秩父多摩甲斐国立公園内にあり、関東平野の南部を貫流する都市河川・多摩川の源流部に位置しています。村の面積の95%を森林が占める水と緑の村です。今から18年前の昭和62年に「多摩源流まつり」を開始し、以来源流にこだわり源流の自然を活かしたむらづくりを進めてきました。そして、こすげ村営釣り場、原始村、東部森林公園キャンプ場、寺子屋自然塾、小菅の湯などを整備し、受け入れ態勢を整えてきました。



多摩源流まつり(毎年5月4日開催)

OPEN
THE NEXT
DOOR!



ヤマメの塩焼

源流を活かした交流事業を推進

平成13年には、第3次総合計画の「源流のむらづくり」のシンボルプロジェクトとして多摩川源流研究所を設立しました。源流研究所は、源流の自然や文化を調査研究し、その成果を広く情報発信して、多摩川源流の自然や文化を活かした交流体験事業を推進しています。これまで余り知られていなかった大菩薩南麓を歩く「源流・大菩薩探訪の旅」や多摩川の最初の一滴をめざす「源流・水干探訪の旅」などの源流探訪は、都会人に好評です。人工林を対象にした「森林再生プロジェクト」に多くのボランティアが参加しています。また、都会の子どもたちに人気の「源流体験教室」です。日常の世界から離れた神秘的な源流との出会いは、子供たちの心にえがたい感動と新鮮な喜びを与えています。



雄滝



源流体験教室



人気の「源流古道・水源林体験の旅」



「森林再生プロジェクト」事業

2月末に半年ぶりに韓国のソウルに行ってきた。数年前からソウルに到着したその日の夕食は知人と、市内の大統領官邸の近くにある食堂「土俗村」^{トックチョン}に行って、^{サムゲタン}蔘鶏湯（雞鳥のお腹にもち米やなつめ、朝鮮人蔘などを詰めて煮込んだもの）を食べるのが習わしとなっているが、今年は様子が違っていた。まず店の入口に「韓国産の鶏肉を食べて鳥インフルエンザに感染したら、20億ウォン（約2億円）を補償します」という垂れ幕があった。20億ウォンは韓国の新入社員の平均年間所得が、300万ウォンと言われているから、べらぼうに高い補償金である。食堂に入る前に補償金の多さに驚かされ、さらに店に入って驚いたのは、三百人以上も収容できるこの店にお客がほとんどいなく、閑散としていたからである。鳥インフルエンザが取り沙汰される前までは、この店はお客でごった返していたのを知っている私は、韓国における鳥インフルエンザ騒動の深刻さを目の当たりにした。

私が好物の蔘鶏湯を食べるのを躊躇せず、美味しそうに食べるのを見た店の従業員が、日本人に韓国の鶏肉の安全性を証明してくれるとありがたい、と言ってサービスにトックリに入った高麗人蔘酒を3本持ってきてくれた。

20億ウォンの補償キャンペーンは、鳥インフルエンザ問題で鶏肉消費が急激に落ち込んだ、韓国の鶏肉・アヒル肉関連の四つの業界団体が鶏肉消費の回復をねらい、実施したものであるが、鳥インフルエンザに関連業界の被害総額は推定で約8000億ウォンと見られている。今のところ「鶏肉を食べて鳥インフルエンザに感染した人はいない」という。帰り際に「東京で食

山梨学院大学
経営情報学部教授

宮塚利雄

鶏インフルエンザに怯える東南アジア 急がれるワクチン開発と 経済損失への対策

べた牛丼は美味かったが、まだ売っているのか」と、アルバイトの青年が日本の牛丼騒動を心配してくれた。

鳥インフルエンザ禍は韓国ばかりでなくベトナム、タイ、カンボジア、インドネシアといった東南アジアや中国でもニワトリへの感染が確認され、ベトナムやタイなどで感染死亡者が出ている。鳥インフルエンザ感染を根絶するためには、ニワトリを処分することが先決とされているが、東南アジアの農村地帯ではニワトリが財産であり、簡単に処分することは難しい。この点1997年5月に起きた香港での鳥インフルエンザ騒動の時には、ニワトリ150万羽の処分を決断し、翌年1月にたった三日間でそれを実行している。東南アジアや中国での鳥インフルエンザ禍は、日本に鶏肉や鳥加工食品類を輸出している企業にも大きな影響を与えている。昨年日本が輸入した鶏肉や鳥加工食品は、タイ産が約26万トン、中国産約15万トンとなっており、タイ産鶏肉は「日本の外食産業を支えてきた」とも言われており、また、これらの国からの輸

入が長期に停止すると牛丼と同じく、「焼き鳥」までも消えてしまうのではと危惧されている（これについてはブラジル産のニワトリなどで代替しているので、そのような事態にはならないとのこと）。タイ、アメリカ、中国など鶏肉の主要輸入国からの停止で、輸入量の7割、消費量の2割が止まっている。

今回の高病原性鳥インフルエンザ（H5N1型）のウイルスの根絶について、WHO（世界保健機構）は「恵まれた状況下でも、数年かかった例が多い」と警告し、日本を含むアジア八カ国でH5N1型が確認されているため、根絶には数年はかかるものと予想されている。しかも、今流行しているH5N1型は毒性が強いのが特徴であり、大流行に備えて急がれるのがワクチンの開発である。また、FAO（国連食糧農業機関）とOIE（国際獣疫事務局）は、鳥インフルエンザで打撃を受けたアジア・太平洋地域の養鶏業者の復興について「最低5億ドルは必要」との見解を示している。鶏肉業界と同じく、農水省はアメリカのBSE（牛海綿状脳症）問題で苦境にある、牛丼や焼肉などの外食・小売り業界への支援策として、運転資金の円滑化に向けて債務補償や利子補給を行うことを明らかにした。

鳥インフルエンザの余波で300キロ以遠の鳩のレースと、飛翔訓練が自粛されることになった。今回のアメリカのBSEによる「牛丼騒動」と、鳥インフルエンザ禍問題は、われわれ飽食日本人に、「食の安全性」を改めて問いただしている。鳥インフルエンザの伝播者と言われている、渡り鳥の渡来をいつになったら安心して見ることができるのだろうか。

山梨県内初の競輪場外車券売場として、昨年12月にオープンした「サテライト双葉」。一歩足を踏み入ると、従来の車券売場のイメージを打ち破る、明るい雰囲気広がる。「ケイリン・アミューズメントパーク」として、山梨に新しい場外車券売場のスタイルを打ち出した。

大型映像で楽しむ迫力のレース 元選手のガイダンスも人気

国道20号線沿いの高台に建つサテライト双葉は、ガラス張りの外観が印象的だ。館内は木目を基調とした、温かみのある落ち着いた内装。やわらかな陽の差し込む、明るい雰囲気に包まれている。すべてバリアフリー対応で、人にやさしい設計なのもこの施設の特徴だ。設備も充実していて、315インチの大型モニターで、迫力のレースを存分に楽しむことができる。

施設だけでなく、サテライト双葉はサービスも新しいスタイルで展開

している。ここには「ファン相談員」という元競輪選手のスタッフが3人いる。毎レース、選手のタイプやレース展開などをアドバイスするガイダンスを無料で開催している。競輪をもっと知りたい人はもちろん、初心者にも楽しめる人気の取り組みだ。

こういったサービスを提供しているのは、全国のサテライトでも双葉が初めて。ファン相談室長の続谷好利さんは「元選手だからわかること



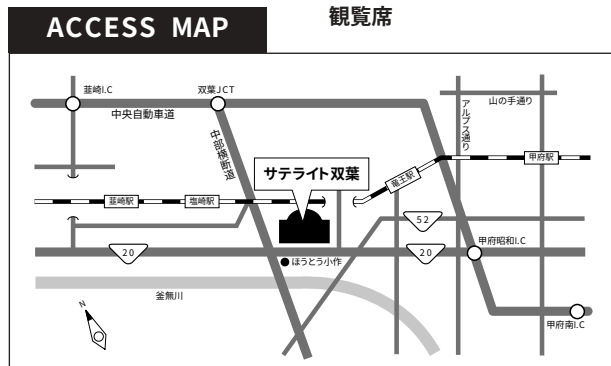
● サテライト双葉 ●

平成15年12月7日オープン。立川競輪を中心にビッグレースなど毎月25日間開催。座席は自由席、指定席、ロイヤルルームがあり、車椅子スペースもある。駐車場は803台。甲府駅からはシャトルバスも運行している。

〒407-0100
北巨摩郡双葉町下今井字南原 2998
☎0180-995-700（開催案内・レース結果）
URL <http://www.st-futaba.jp>



観覧席



ファン相談室の続谷室長

競輪場外車券売場 サテライト双葉



大きなレタスが育ちました。
今日、採りたてをお送りします
甲府通運の宅配便で…。

安心 通運の宅配便



事業内要

- 一般貸切輸送（一般、常用、専属）
- 重量品輸送（取り付け、取り外し搬出入作業）
- 入出荷請負（荷造り、梱包作業、出向代行業務）
- 引越輸送（事務所・工場の移転、ご家族のお引越等）
- JRコンテナ輸送取り扱い
- 一般貨物全国定期便 ● 宅配便
- 航空便取り扱い ● 産業廃棄物収集運搬
- 生命保険の募集及び損害保険代理業

——— 流通の基本を大切にその先へGO ———

（運）甲府通運株式会社

本 社 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3329-1
TEL.055-273-0611 FAX.055-273-9332
田富営業所 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田富町流通団地3211-14
TEL.055-273-5471 FAX.055-273-6277

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめばえる文化探訪

相撲甚句を学び、楽しむ仲間

唄い継ぐ伝統文化 味わい深い歌詞に魅力

すもうじんく 甲州相撲甚句会

「ハー、ドスコイドスコイ」。ワインカラーの法被（はっぴ）に身を包み、威勢のいい掛け声に、テンポのいい七五調の唄を披露するグループがいる。山梨県で唯一、相撲甚句を学び、楽しんでいる「甲州相撲甚句会」だ。

発足は八年前。当時、相撲甚句会は全国に60団体ほどあったが、山梨にはまだなかったそう。日本相撲甚句会の会長の先祖が長坂町出身ということもあり、山梨でもぜひ相撲甚句を広めていこうと活動を始めた。

そもそも相撲甚句とは、250年の歴史を持つ伝統文化で、相撲の巡業や引退式で唄い継がれてきたものだ。その昔、巡業は1つの相撲部屋だけでまわっていたため、取り組み時間が短く、その後の余興の1つとして親しまれていたのだとか。

「だから身近な題材の唄が多いんです。節そのものは単調ですが、歌詞はじっくりと味わえるものばかり。とても深みがあるんですよ」。

事務局長を務める佐藤眞佐美さ

んは、その魅力を熱く語ってくれた。発足当時は発表の場もまだなく、老人施設などに慰問に行ったりしていたというが、現在は出演依頼も増えて、交通安全週間のイベントなど、活躍の場が広がっている。

年に一度は両国の江戸博物館で開催される全国大会にも出場。本場所中の土、日、祭日には、関東エリアの相撲甚句会十数団体とともに、両国駅前一般の人を前に披露もしている。佐藤勝会長は「人前で唄うことが、会員みんなの励みになっているんですよ」と笑顔を見せた。

今後の目標を尋ねると、「会員みんなの輪を大切に、長く唄い続けていくことです」と声をそろえる二人。決して派手な目標ではないが、相撲甚句を愛するこのグループのひたむきな姿勢が伝わってきた。

◆甲州相撲甚句会◆

県内の有志が集まり平成8年3月に発足。メンバーは50代後半から60代の約10人。毎月2回、甲府・勤労青年センターで練習会を実施。県内のイベントをはじめ、日本相撲甚句会全国大会など県外のイベントにも参加している。

問い合わせ
甲州相撲甚句会 佐藤眞佐美事務局長
連絡先
〒406-0813 甲府市向町876-9 ☎055(235)3868

相撲甚句の魅力を語る佐藤会長と事務局長の眞佐美さん



夫の転勤に伴い、山梨に住むこと丸2年。知り合いもなく、ゼロからのスタートでした。私は生まれも育ちも東京。結婚後山梨に移るまでの間は、鎌倉まで目と鼻の先の横浜市で暮らしていました。当時の楽しみといえば海のドライブ。しかも行き先は、漁師が営む海沿いの魚屋。その日とれた鮮度のよい魚をみては調理法を聞き、自宅でおろします。大量に安く仕入れた日には、干物に挑戦。魚をおろす姿を見るのも苦手だった私が、おろさずにはいられなくなる程の変貌ぶりに周囲も驚くばかり。鎌倉の四季のうつろいを感じつつ、旬の魚に舌鼓をうつ。最高の贅沢を感じながら暮らしてきた日々を、今懐かしく思い出されます。

そして海から山の生活へ。現住まいからは右に南アルプス、左には富士山を臨めるという眺望の良さ。雄大な山々の見え具合から1日の天気を判断する事が、すっかり日常の中に溶け込んでゆきました。玄関を開ければ地元を象徴する山が出迎えてくれる。なんと清々しい、都会や海には無い光景でしょう。山には山の美しい空気の色があるのですから。

私は幼い時から住環境を整えることに興味がありました。週末になると私を連れて散歩をし、町並みや住まいを見て歩く父。お花が好きでお洒落な母は、いつもさりげなく季節感を取り込み、部屋やテーブルを整える。そこにはお金をかけて得る贅沢以上に、日常の季節のうつろいや土地の空気を感じとり、生まれる贅沢がありました。こうした自分の育った生活環境は自ずと住まいの環境

～Seasons Yamanashi～ 季節を感じて、 心地よく暮らす

エッセイスト

深谷 百合苗



山と共に過ごす日々

に意識が高まり、インテリアの道に進むこととなりました。季節のうつろいから得られる最高の贅沢。ここ山梨においても十分に味わうことが出来ます。

例えば道の駅や農産物直売所。ふらりのぞいては、その日とれた新鮮な旬の味覚に出会い、調理法を

聞いて食卓に登場するという喜び。常に食べている食材も、ほうとうをはじめとする山梨の郷土料理にまで目を向けてみると、風土気候の利にかなう産物だったりするのです。

子供が産まれてからは、日課の散策やお昼寝名目の小1時間のドライブの中で、旬の味覚探しを開始。離乳食に採れたてを一品、あれこれ加工せず食す楽しみを見つけました。ちなみに離乳食当初の旬は桃。最初は果汁に。徐々に熟したものをそのまま。冬には名物八幡芋の蒸したてを子供の口へ。旬の産物は栄養価も高く、美味しく、そして何より安いのが魅力的。旬のとれたては子供も美味しいと感じるらしく、喜んで食べてくれます。これぞ究極にシンプルで美味しい食育。半ば自己満足に浸りながら楽しんでいる次第です。

今朝も富士山と南アルプスが美しく姿をみせました。さて今日の散策からはどんな発見があるでしょう。山梨の風土気候や季節を感じて、心地よく暮らす。山梨のもっとも華やかで、美しい桃の開花の時期は、ほら、もうすぐそこまで来ています。



山梨の旬の産物と美味しいパンを組合わせた離乳食

甲州雨畑硯

「雨畑硯」

「雨畑硯」は富士川の支流、早川町の雨畑地区で硯の原石が採れることからその名がつけられました。中国広東省で産出する最上の硯、「端溪硯」に匹敵するとも言われ、「和端溪」とも呼ばれています。

元禄3年（1690）、雨宮孫右衛門が身延山久遠寺に参詣の折、富士川支流の早川河原で黒色の石を拾い、これを硯にしたことが始まりとされています。天明4年（1784）、四代雨宮要蔵が將軍家に献上したのを機に、次第にその名を広めていきました。

良い硯の条件は、^{ほうぼう}鋒鉾が強く、細かく均等で、かつ硬質であることです。鋒鉾とは硯面の微粒子のことで、これが多いほど墨が細かく、滑らかになります。硯の命は

鋒鉾にあるともいえます。

雨畑の原石は粘板岩で、鋒鉾に富み、水持ちが良く、墨の下り具合、墨色共に最高です。まさに硯には最適な材質といえます。特に、硯面にねずみ足のような細かい模様があるのが良質、高価、貴重とされています。

現在、加工は雨畑、鯉沢の数軒で行われており、硯匠が今もなお、^{のみ}鑿を使っての手作りで、雨畑硯は精魂込めてつくられています。

甲州雨畑硯加工業組合
〒400-0601
山梨県南巨摩郡鯉沢町5132
☎ 0556 (27) 0209

雨畑硯製作工程



1



2



3

1. 選別された材石を、たがねを使い表裏を平らにします。

2. 鋸で形をきめ、上下両面をノミで削り平らにします。

3. 表裏が平らになった材石を、大村砥、金剛を用い、正確な寸法に整えます。

4. (彫り) 石ごしらえできた石に、中側の輪郭を付け、墨池と墨道をノミで削り工作します。

5. (磨き) 更に硯を荒目（大村砥）、中目（上野砥）、細目（対馬砥）、人工砥石などを使い、磨きます。

6. (仕上げ) 磨かれた硯は、墨液、うるしを薄く塗布して仕上げられます。



4



5



6

INFORMATION

やさしい手甲府のサービス紹介 『介護タクシー』

介護タクシーとは、道路運送法並びに介護保険法の指定を受けた介護サービス事業者が行なう通院介助サービスで、要介護者のケアプランにもとづき運転手を含むヘルパーが病院まで同行する介護保険対象のサービスです。

やさしい手の介護タクシーは職員全員が2種免許を持っているプロのドライバーで、またヘルパー1級2級の資格を持っていますので、安心してご利用いただけます。

これまででは郡内地域のみの営業でしたが、4月からはサービスエリア



が甲府市内に広がりより一層ご利用頂きやすくなりました。甲府エリアでは今後、要介護認定を受けていない方でもご利用いただける「生活支援輸送サービス」を検討しています。

＜お問い合わせ先＞ 富士吉田事業所 電話0555-30-4441(担当：山口)
甲府事業所 電話055-255-6330(担当：森嶋)

やさしい手 八王子事業所 開設準備中

やさしい手甲府の13番目の事業所として東京都八王子市に新しい事業所が生まれます。現在は6月1日のオープンに向けて準備を進めております。今後は県内外を問わず、幅広いニーズにお応えできる介護サービスを目指しこれまで以上に努力して参ります。ご支援よろしくお願い致します。

＜お問い合わせ先＞ 電話055-231-6633(やさしい手甲府：本部)

(株)やさしい手甲府
本社：甲府市丸の内1-21-7武藤ビル6F TEL055-231-6633

おかげさまで50年

早野組は今年6月19日で創立50年の節目を迎えます。

現社長の祖父である早野金蔵が明治20年4月8日に早野組を創業いたしました。国鉄中央線が開通したのが明治36年、開通まで6年の歳月を要したこの大事業に早野組の英知と技術が捧げられました。以来昭和8年に亡くなるまで、山梨県建設業界の草分けとして活躍し、現在の山梨県建設業協会の前進である山梨県土木請負業組合の初代の理事長に就任いたしました。そして、昭和29年6月19日に現社長の父である早野欽介により、株式会社早野組としてのスタートが切られました。早野欽介が昭和40年まで社長を務めた後、3代目大橋一良が昭和42年まで、4代目青柳佐八郎が昭和42年～44年、5代目平山銃一が昭和44年～47年までそれ

ぞれ社長を務められてきました。そして、6代目である早野潔が昭和47年6月、30才で社長を引き継ぎ今日に至っています。

社員の皆様、グループ各社の皆様、協力会の皆様、そしてお世話になった多くの皆様、これまで早野組を育てていただきまして本当にありがとうございます。これからも末永くよろしくお願い致します。



旧中央線敷設工事

※当社ホームページはyahooの検索に「早野組」と入力しますと一発で検索できます。

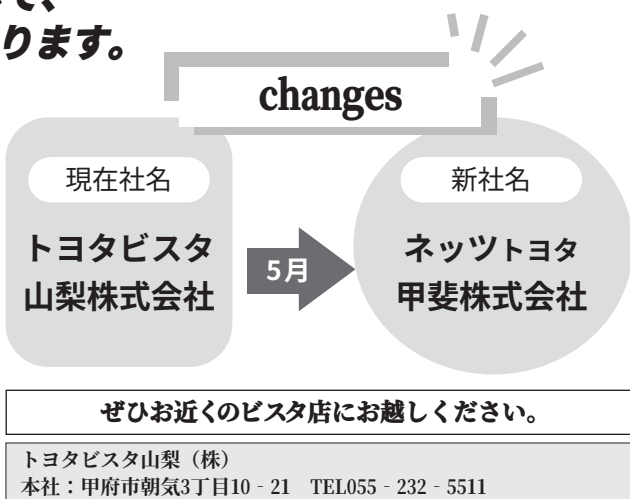
(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055-235-1111
<http://www.hayano.co.jp>

より豊かなカーライフの創造を目指して、 5月、ビスタ店は変わります。

トヨタビスタ山梨は、この5月、新しいネット店としてスタートをすることとなりました。

新しいネットでは、独自の存在感のある魅力的なラインナップと充実したアフターメンテナンスで、これまでにまして、皆様のカーライフをサポートしてまいります。

どうぞ今後とも変わらぬご厚情をを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



INFORMATION

「トヨタ自動車株式会社」から 「トヨタホーム株式会社」が誕生

2004年1月1日、「トヨタホーム株式会社」はトヨタ自動車株式会社より商品企画・営業部門等を分離し、販売統括会社として新しく誕生いたしました。

お客様とのコミュニケーションを大切に、単なる「ハウスメーカー」ではなく、生涯に渡る「暮らしのパートナー」として、皆様に末永いおつきあいをさせていただけるよう、取り組んでまいりますので、トヨタホーム株式会社・トヨタホーム山梨株式会社共に今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



2004年 — あなたと始めたい一歩があります —

トヨタホーム山梨(株)
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL055-275-1234 FAX055-275-7806
<http://toyotahome.mediagalaxy.ne.jp/yamanashi>

社団法人 全日本トラック協会 第1回安全性優良事業所に認定



安全性優良事業所認定マーク

全国貨物自動車運送適正化事業実施機関である、社団法人全日本トラック協会(会長・高橋喬郎)は12月18日、今年度申請のあったトラック運送事業者の2,778事業所(営業所)について、「安全性に対する法令の遵守状況」「事故・行政処分状況」「安全性に対する取組の積極性」の3項目を評価し、1,676事業所を第1回の「安全性優良事業所」として認定しました。

貨物自動車運送事業安全性評価事業は、平成15年度が初年度となるもので、荷主企業や一般消費者が、より安全性の高いトラック運送事業者を選び易くするとともに、事業者全体の安全性向上に対する意識を高めるため、全国貨物

自動車運送適正化事業実施機関が事業者の安全性を正當に評価し、認定し、公表する制度です。

認定を受けた事業所は、平成16年1月1日から17年12月31日までの2年間で認定の有効期間として認定証の交付を受けるとともに、認定マークおよび認定ステッカーを「安全性優良事業所」の証として使用することが出来ます。

第1回安全性優良事業所(山梨県)				
市町村名	事業所名	住所	電話番号	
甲府市	甲府トラック運送株式会社 本社営業所	山梨県甲府市上阿原町310-2	055-232-1414	
	株式会社鈴与ガスあんしんネット 甲府	山梨県甲府市朝気3-22-10	055-235-2361	
南アルプス市	白根運送株式会社 今諏訪営業所	山梨県南アルプス市上今諏訪1133-1	055-285-6311	
山梨市	山梨通運株式会社 本社営業所	山梨県山梨市上石森1048	0553-22-1611	
	山協株式会社	山梨県中巨摩郡田代町西花輪4422	055-273-9270	
中巨摩郡	甲府通運株式会社	山梨県中巨摩郡田代町山之神流通団地3329-1	055-273-0611	
東八代郡	山梨重量株式会社 本社営業所	山梨県東八代郡中通町上曾根2930	055-255-5035	
甲府通運(株)				
本社：中巨摩郡田代町流通団地3329-1 TEL055-273-0611				

知っていましたか…?

路面標示は道路交通に対し、必要な案内、誘導、警戒、規制、指示等についてペイント類又は道路鋲又はこれに類するもの等を用い、一定の様式化された線及び文字、記号を路面に設置することにより交通の流れを整え、誘導して交通の安全と円滑を確保し、併せて道路構造物等の保全を図るために設けられています。



人とふれあう・自然とふれあう 子供達の限らない可能性に…。



遊びは子供達の感性を刺激し、感覚を磨きます。集団で遊ぶ事によりルールが存在を知ります。豊かな人間性を育む為に自由に思い切り遊べる環境作りのお手伝いをしています。

(株)ロード 本社：甲府市下小河原町262番地 TEL055-241-6161(代)
FAX055-241-6118 e-mail uproad@pluto.plala.or.jp

多くの側室をかかえる信虎の正夫人として 大井夫人の生きざまは壮絶であった 子育てに賭けた母親の執念を分析する

大井夫人

(おおいふじん)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室
を経て67年から文筆活動に入る 著書に「甲斐武田氏」等多数



重要文化財大井夫人画像（長禅寺蔵）

大井夫人は、甲斐国西郡の豪族、大井信達のぶさとの長女として、明応6年（1497）に誕生している。大井家は室町初期に、武田宗家の武田信武から分かれた名族で、武田大井殿と尊称され、武田信虎の時代には、信達が信虎に対抗する有力国人層の、一方の旗頭として活躍していた。

大井夫人には弟がおり、家を継いで左衛門信堯のぶたかといった。妹も3人ほどおり、それぞれ有力国人の今井氏、小山田氏などに嫁している。

大井夫人が武田信虎と、何時結婚したか、実は明らかではない。一般的には武田信虎と信達が正式に和解した、永正14年（1517）ではないかといわれているが明拠するものがない。

大井夫人の子供は、長女として今川義元に嫁した娘（永正16年（1519）誕生）があるが、この年8月、信虎は石和館から甲府の新館へ移住計画を立てており、同年12月に移り住んでいる



古長禅寺にある大井夫人の墓



甲府の長禅寺にある夫人の墓



古長禅寺の近くにある草庵の跡

が、この様子から見ると、夫人は最初の娘は石和館で産んでいるのである。次いで産まれたのが、嫡男太郎（元服して晴信）、大永元年（1521）11月3日、積翠寺で誕生している。それも臨月の間近い大井夫人が、駿河勢と戦う信虎軍の合戦をさせて、積翠寺に逃げて、長男を儲けているのである。

ついで大永5年（1525）に二男の信繁が生まれており、さらに享禄元年（1528）には、三男の信簾のぶかどが誕生した。そのころ信虎には、大井夫人のほかに、何人もの側室があった。たとえば穴山信友に嫁した南松院夫人は母は内藤氏、義元夫人と同じころの誕生である。

また大永3年（1523）に7歳で死去した竹松という子は、晴信よりも年長であったから、粗暴な夫と、多くの側室にはさまれて、大井夫人の心境は悲痛なものが多かったことだろう。

大井夫人の子供の教育は、とくに

幼児教育に留意していた様子が窺える。それというのも信虎の行為が、計算高い狂気を中心であったから、夫人の心は吾が見らに對して、ほとんど本能的に「道」を説く姿が顕著に現れている。

また幼児教育には故郷大井の鮎沢にあった古長禅寺に招いた、岐秀元ぎしゅうげん伯に委嘱している点もすごいと思う。この学僧、京都妙心寺の二十世、大宗玄弘ぼくしの法嗣といわれるから、たいした名僧で、享禄年間には尾張の名刹瑞泉寺に住していた。その学僧に白羽の矢を立てて、ねんごろに迎えたのであるから、たいしたものである。

また実際にその教えを受けた子供達は、太郎は長じて晴信（信玄）となって、戦国乱世にその名を謳われた名将となり、二男信繁は兄信玄をささえる名将として名高く、三男信簾は、逍遙軒信綱せんそうという武人画家として尊崇をうけ大成するに至った。

夫人の生きざまが、顕著に現れたのは、天文10年（1541）6月の、武田信虎の駿河退隠劇のおりであった。大井夫人は43歳になっていたが、夫信虎に従わず、敢然と髪を切って、仏道に帰依してしまったのである。そして躑躅ヶ崎の隠居曲輪に住み、その名をお北様と呼ばれるようになった。

おそらく宿命に生きた夫人の、信虎への最後の抵抗と見るができるだろう。この信虎退隠劇の深刻さと微妙さをうかがわせるものがある。たとえばこの事件を信虎側から見れば、駿河へ隠居、退隠といっても、信虎は充分すぎる隠居料を終生晴信からもらい、何人もの女中衆にかしずかれ、側室も何人か連れていっており、その側室に、正式に分かつ

ているだけでも二人も駿河で子供を儲けさせているのであるから、相変わらず恣意と欲望のままに生活している。それに相対する夫人の方は清らかな仏門に入っしまい、その踏んでいく人生の態度が、あまりにも違っていたのである。

甲府市の御岳金桜神社に夫人愛用の、化粧用手箱が奉納されている。住吉蒔絵手箱で、おそらく除髪して仏道に帰依したおり、納めたものであろう。おそらく仏門に帰依するにあたって、いっさいの虚飾を排除するために、その悟道を求めて奉納した様子が窺える。



御岳金桜神社に納めた夫人愛用の手箱

大井夫人は、天文21年（1552）5月7日、55歳で生涯を閉じられたが、ずっと北ノ坊に住んだのではなく、ごく晩年は故郷の鮎沢古長禅寺の傍らに庵を建て、そこで過ごされたとも伝えられている。

現地に入ってみると、古長禅寺は大正13年（1924）に伽藍が全焼し、古い面影はないが、古松老杉が幽邃、閑雅な趣を呈していて、寺域の東の一角に、晩年を過ごされたのではないかという古寺がある。墓も古長禅寺にあるから間違いのないであろう。

甲府市長禅寺に夫人の最晩年の、肖像画が一幅残されている。国の重要文化財に指定されている。記録と

伝承によると、この一幅は大井夫人が55歳の生涯を閉じられたあと、その一周忌に当たって、信玄の弟・武田信簾（逍遙軒信綱）が、母の面影を精魂こめて描き上げ、菩提寺となった甲府市の長禅寺に納めたのである。

おそらく、年齢25歳の信簾は、神経こまやかな武人画家であったから、その母の面影を涙ながらに描いたのではないかと思う。母の面影は、頭に紺青の頭巾をかぶり、墨染めの法衣ほうえをつけ、赤地金襴らくすの絡子めんぼうをかけた比丘尼姿である。その姿態と面貌の中からは、いかにも女らしさ、やさしさ、つつましさなどが滲み出た、一口に云って柔和な人柄が浮かび上がってくる。生来、温和な個性の持ち主だったのであろう。

肖像の上部に甲府・大泉寺の住持、安之玄隠あんしげんおんさんが賛を加えており、夫人の和歌一首が書きそえられている。

春は花 秋は紅葉の いろいろも
日かずつもりて ちらばそのまま
口ずさんでみると、政略結婚にも

てあそばれた、戦国の女性の、たいへんな悟道の境地が伝わってくる。高貴な社会の女性群像をみていると、全体的には仏教的和讃のような匂いが強い。それはいうなれば、戦国特有の永劫えいごうの無常観かも知れない。つまり高貴な社会の女性は、外面的には一見、華麗さがあり、威厳をともなっているが、自己みづかみの夢がないから、つねに諦めの観念が先行してしまうのだろう。大井夫人の辞世の歌を見ても、それが強く窺えるし、他の多くの戦争に散った女性達の辞世の歌などみても、戦争のはかなさ、人生のむなしさが強く訴えられている。

アメリカ生まれの印象派画家

メアリー・カサットはアメリカ人の印象派画家である。アメリカで生まれた彼女は、その人生のほとんどをフランスで過ごし、フランスで死んだ。そういうアーティストも、無論いたのだ。

メアリーはペンシルヴェニア州アレゲニー市に生まれた。父は金融業を営み、後に市長になった。一家は1851年にヨーロッパに移り、パリなどに住むが、1855年、事情によりアメリカに戻る。この間にメアリーはフランス語などを流ちょうに話せるようになっていた。

1867年、父親の反対を押し切って母親とパリへ。そこで印象派の画家たちと出会い、深い影響を受ける。特に1877年のドガとの出会いが強烈だった。印象派展にも4回出品している。

寂しげな目、不機嫌な目

メアリーの代表作をいくつか紹介してみよう。まずは『棧敷席』と『青いひじ掛け椅子に座った女の子』である。

僕がメアリーの作品に魅かれる理由は簡単だ。彼女が描いた人物のその目の寂しさ、あるいは不満そうな気配に、いやおうもなく魅了されてしまったのだ。そういう絵をあまり観たことがなかったからだ。

『棧敷席』の二人の女性の眼差しを go らんいたきたい。当時流行していた劇場の棧敷席から観劇している二人の女性。寂しげでしょう？ もしかしたら悲しい物語を観ているときの顔つきかもしれない。それにしても、当然笑っているシーンを選んでもよかったわけで、そこにメアリーの資

ボクのアート品観察日記

メアリー・カサット (一八四五〜一九二六)

山本育夫

23

質のようなものが表れて見える気がしたのだ。

双生児のように並んでいる二人の眼差しが、寂しげな目の印象をいっそう強くしている。

『青いひじ掛け椅子に座った女の子』の少女の場合は、その不機嫌さが強く目に表れて見える。「もうモデルなんていや、早くおしまいにして、メアリーお婆さん！」と口に出しそうな気配がこぼれだしそうだ。

メアリーは生涯独身だったので子どもはいない。この子は、ドガの友人の娘さんだそうで、そもそもこのポーズも、ドガに教えを受けた。さらにドガは背景を描く手伝いまでしていたというのだ。そういうエピソードをもつこの絵は、もうそれだけで価値がある。

ドガが購入した絵

それをいうなら『髪を整える少女』の話をしなければならない。この絵はドガが第八回印象派展の会場でメアリーから買い求めた1品だ。

1917年にドガがこの世を去ったとき、ドガのコレクションの中に入っていたこの作品は、当初、人々はドガの作品と見まちがえた。メアリーはそのことを喜んだという。敬愛するドガが自分の作品をほしいといって買ってくれたこともうれしかったが、みんながドガの作品だと見まちがえてくれたこともうれしかったのだ。それほど自分の作品がドガの境地に近づいていたということになるのだから。

ワシントン・ナショナル・ギャラリーは、メアリーの作品をたくさんコレクションしている美術館の一つだ。すでに3回の大きなメアリー・カサット展

を開いていて、どの展覧会も10万人を超える入館者数を数えた。現在、メアリーは印象派の巨匠として、美術館や多くの人々に認められた画家なのである。

再び『棧敷席』の女性たち

劇場の棧敷席という場所は、多くの人々に注目を浴びる場所でもある。一人の観客として気ままに劇を楽しむというだけではすまない場所でも

あるのだ。だから、もしかしたらはじめてこの棧敷席に座った彼女たちは、いささか緊張しているというのだというシーンかもしれない。そう考えるとこの眼差しは寂しげなのではなくて緊張の眼差しかもしれない。

絵を見るポイントは、背後の劇場のバルコニーの楕円と女性が持つ扇子の楕円の呼応し合う形の関係。同じようにバルコニーに施されたグリーンと、扇のグリーン、さらには手前

の女性が持つ花束のグリーンが呼応しあっているところだろう。こうしたつながりが画面にリズムを生み出している。

それにしてもかすかな陰影だけで、よくこれだけボリューム感のある肉体を描けたものだ。1882年、パリのある劇場に、確かにこういうお嬢さんたちが実在していたという感じが、しっかりと伝わってくる。絵を見る喜びである。



「棧敷席」



楕円のリズム



緑色のリズム



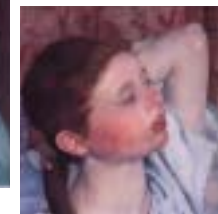
「青いひじ掛け椅子に座った女の子」



ドガが描いた部分



「髪を整える少女」



歴史の登場人物は、時、ところによって、登場のあり方も、脚光の浴び方も、評価も異なってくる。今年、テレビや小説でさつそうと登場した人物に、近藤勇がいる。

近藤勇は幕末の京都を舞台に新撰組を率い、勤皇の浪士たちを次々に暗殺して恐れられた。その出で立ちは、だんだら染めという羽織を着、隊旗には「誠」の文字を記していた。出身は現在の調布市、甲州街道沿いの村で、幕府が京都の騒ぎに「暴をもつて暴を制する」と募集した「御用の暴力団」に志願した。

蛤御門の合戦における近藤勇の人斬りについて、歴史家

故郷に錦、近藤勇

先祖は武田、板垣退助

勝沼柏尾で激突

甲府城開城、明治へ

は、御築地の蔭に隠れて行き過ぎる敵を後ろから斬り、また元の位置に隠れ、また、敵の行き過ぎるのを見ては出て斬った、と報告している。さらに、前から斬ったのはひとつとしてないと、その剣術振りを披露している。

この近藤勇が、新撰組の生き残りに新たな隊士を加えた

梨山にこんなところで
思いがけない場面で見
ふるさと再発見

一六〇人で「甲陽鎮撫隊」を編成し、甲府城での官軍迎撃を計画した。官軍を率いるのは板垣退助で、これに従う土佐藩兵は六〇〇人。近藤勇が甲府城に勤番士とともに立て籠れば面倒になると、甲府への進軍を急いだ。

先着したのは、もとより官軍で、甲府城は戦わずして明け渡された。板垣退助は、じつ

は、このときには乾退助だった。退助の先祖はかつて武田信玄の重臣・板垣信安であり、武田家滅亡後は板垣の姓を遠慮し、乾を名乗っていた。甲府進軍の折、甲州人がいまだ信玄を慕っていることを知り、先祖の旧姓、板垣を名乗ることにしたのだという。

近藤勇が遅れをとったのは、生まれ故郷に立ち寄り、「錦を飾り」、歓迎の宴で飲み明かしたためである。一日の遅れが、前途を絶った。両軍は勝沼の柏尾で決戦したが、官軍は一、二〇〇人の大隊になっていた。官軍は勝利し、近藤勇は退却、後に斬首となった。

板垣退助は甲府の治安を守るため、武田氏の子孫六三名を召し出し「護国隊」と命名し、町奉行のもとに付けると、江戸へと進軍した。このとき、板垣退助三三歳、近藤勇三五歳、慶応四年（一八六八）三月六日のことである。この九月、元号は明治と改められる（寿）ご紹介した本

「江戸の豪俠 ひとさまさま」 三田村鳶魚
「春秋彩る甲府城」 斎藤芳弘

MUHから生まれた本
「日用の散策」 古屋久昭 著



本誌MUHから待望のエッセイ集が誕生した。巻頭エッセイ「フォーラムのレギュラーで、詩人の古屋久昭氏が、創刊号から三〇号までのエッセイを中心に上梓した。

毎号の「フォーラム」のテーマは、身近な話題や、日用品が主人公で、ユークな視点が好評だ。本の

タイトルも、そこから生まれている。たとえば、創刊号のテーマは「電話」。著者は、見も知らない人から「生きていくって愛なのよね」と、奇妙な電話をもらう話を披露する。

一〇号の「ワープロ」では、その昔、映画でタイプライターを打つシーンに憧れたことを思い出しつつ、パソコン時代への急速さに溜め息を洩らす。二〇号では「余暇」をテーマに、貧乏暇なしで余暇は幻想に過ぎないと近況報告をする。

MUHの創刊は一九九四年の七月。十一年目を迎えた今号の「フォーラム」のテーマは「花見」。あわせて、ご味読いただきたい、静かな日常の時間の中に、著者ならではの感性が、ひとつの世界をひろげていく。

山梨ふんた文庫 ¥1,500+税

お茶の間の民俗学(21)

信州諏訪といえば諏訪湖で採れるシジミ貝が、むかしから有名で、甲州街道を行き来する旅人にとって、唯一の食材となっていた。

ところがこのシジミ貝ははじめから諏訪湖にいたものではなく、そのご先祖が何と甲州荊沢の川に生息していたものだったという。

荊沢は昔から駿信往還の宿場町で、ひところは大量販わいのあったところで、特に信州あたりの馬方衆が鰍沢河岸まで荷を運んで、ここで駿州や江戸から入ってくる荷物を積み込んで、その日のうちに諏訪まで戻るといいう仕事に明け暮れしていた。

馬方衆は往きはともかく帰りに向かうと荊沢あたりで申し合わせたようにここを流れている瓜川の勸進橋で少休止をした。瓜川という川は砂の多い水もきれいな川で、ここにはたくさんシジミ貝がいた。馬方衆はいつの間にかその貝に目をつけて、少休

ふるさと意外史(2)

—諏訪湖のシジミ貝—



民俗学研究者
志摩 しま

阿木 木きお

止のときにせつせと貝採りに励んだ。シジミ貝は栄養も豊富だし味もよし簡単に調理できるとあって、家待つ家族はもちろん近所隣りの人たちにも喜ばれるので、馬方衆は楽しみのひとつとして、それを毎日のように励んでいた。

ところが、いくらみやげとはいっても毎日シジミという訳にもいかないし、ときには余ってしまう時もある。シジミは生き物であるから、長く保存はできないし、それにせつかく採ってきたものを無駄にしては冥利がよくない。そういう時にはてんでに諏訪湖へ持って行って放した。

水を得た貝は再び元氣を取り戻して、湖の底に定着するようになって、毎年毎年繁殖して、とうとう諏訪湖のシジミと名付けられ、多くの人たちから好評を得るまでとなったという。

いま諏訪湖のシジミたちは遠いむかしの祖先が荊沢とい

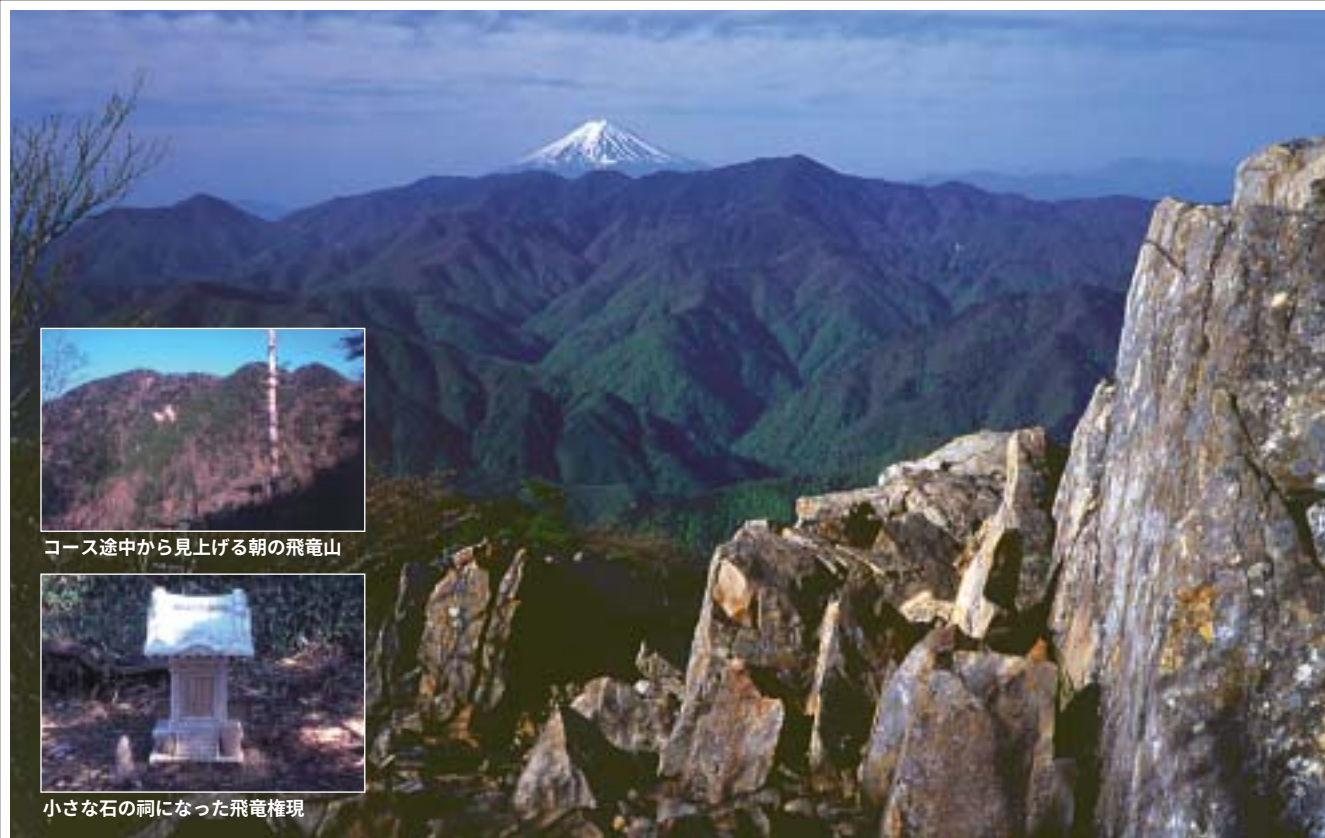
う地に本籍地があったことなど知る由もないであろうが、甲州荊沢には今でもこの話は伝え残されている。

ただ瓜川という川の名も勸進橋と呼んでいた橋も現在の地図には載っていないし、荊沢の地名は残っているにしても昨年まで存在していた甲西町は新しい南アルプス市となってしまう。

時の流れはこのようにして遠い日の人たちのふるさとを容赦なく消し去っていくが、諏訪湖のシジミのルーツが、このようなところにあったということは、山梨に住む者のひとりとして、忘れられない話としていつまでも語り伝えていきたいと思う。

馬方衆がシジミ貝をみやげに家路を急ぐ姿を想像すると、そのころ流行したという唄がどこからか聞こえてくるような気がする。

西降り空だ おいそぎやれ 荊崎へはよつけ 諏訪の馬方――



コース途中から見上げる朝の飛竜山



小さな石の祠になった飛竜権現

飛竜山・ハゲ岩から展望する残雪の富士山

山梨、東京、埼玉の一部二県にまたがる雲取山の西に位置し、埼玉との県境にある山である。古くからオオカミ伝説が伝わり、奥秩父主脈縦走路上にありながら、とにかく静かだ。奥まっけるせいか、標高以上に高くも感じられる山である。

塩山から柳沢峠を越えて青梅街道をどんどん下る。丹波のほぼどから登って、前飛竜、飛竜山と続くミサカ尾根が直接のコースだが、この尾根は少々長い。丹波からもう少し国道を走り、お祭りという集落手前で鋭角に左折、路面状況の悪い後山林道に入る。林道終点まで約三十分、車を置いてコースを歩く。整備された歩道の行く手に、山の宿三条ノ湯がある。宿の裏手から右は雲取山方面、飛竜山へのコースは左だ。やや急な山腹を登って尾根を左手に越えて行く。一帯は東京都の水源涵養林であるため、ブナやカエデなどの森林がよく保護されている。途中で飛竜山の一部が望める。樹林の中には、ミツバツジが点在する。緑の中をひたすら登り、もうひとつ尾根を越えて北天ノタル



飛竜山周辺図

【参考タイム】

甲府
↓ (車2時間)
後山林道終点
↓ (30分)
三条ノ湯
↓ (2時間)
北天ノタル
↓ (40分)
ハゲ岩
↓ (15分)
頂上

下りは林道終点まで2時間半

に出る。ここからは県境稜線の山梨県側につけられた縦走路を辿る。やや上下して着いた平地には、飛竜権現の祠がある。昔からの木造の祠は倒壊してしまい、新しくなった石造の小さなものである。

そのすぐ先にハゲ岩の標識があり、出たところからの富士の展望が抜群なのだ。大分距離はあるが、大菩薩嶺のすぐ南側の尾根上に見える残雪の富士山である。祠まで戻って山頂に登っても、シラビソ林の間から富士は十分その姿を見せてくれる。

甲府通運前史を訪ねる(23)

〈甲府通運のページ〉

(前号より)

昭和

和二十年(一九四五)七月、戦災で損害を受けて、運行区間が甲府上石田(青柳(現増穂町)となっていた愛称「ポロ電」)の山梨交通電車線も、二十二年(一九四七)に甲府駅前までの線路復旧が終わって、二年ぶりで甲府の街に電車が走った。路線バスも順次復活、増設されて来る。

昭和二十八年(一九五三)九月には、それまで甲府駅正面前から発着していた路線は、国鉄(現JR)甲府管理事務所移転にともない、駅前広場東に建物を新築しプラットホームも設置して発着することとなった。したがって駅前から南進し中込百貨店(旧西武・現県民情報センター)前を左折し現県民会館前に至る線をホームを出てただちに右折、舞鶴城西側石垣と県庁東側にそって南北に通る道路(現在この上は跨線橋となっている)を南下して県民会館前交差点で従来の路線と改められた。電車の通る西側の県庁構内には木造瓦葺き二階建ての県教育庁や平屋造りの車庫が並んでいた。

甲府の南西部や竜王、西郡の

昭和20～30年代の娯楽は映画見物 その戦後の復興を訪ねる

林 陽一郎

はやし よういちろう

甲府市教育委員会文化振興指導員・山梨郷土研究会



戦後間もない甲府中心街の様子

人々の足となって利用されてきたこのポロ電もバイクや家用車の増加にともなって利用客の減少となり、昭和三十七年(一九六二)六月三十日限りで廃止された。その姿を消し、路線のレールも取り去られて現在は主要地方道甲府櫛形線となり、通称「廃棄道」と呼ばれる生活道路として利用されている。

戦災に続く敗戦のダメージを受けた甲府の街であったが、その復興もめざましかった。進駐軍のジープが走る甲府の街には喫茶店(当時の年寄りはキッチャテと呼ぶ人もいた)やダンスホールが店開きした。現在も継続して営業されている店もある。

現在のようなテレビやビデオがなかった昭和二十年初め、娯楽の主なものとしては映画をあげなければならぬ。パチンコの出現はもう少し後のことである。戦前からあった甲府の映画館として中央館、電気館、甲宝などがあげられるが、いずれも街の中心部にあったために二十年七月の空襲で消滅した。終戦になり、当時戦災を受けたが建物外部と床が残った松林軒と岡島の両百

貨店を利用して映画が興行として再開された。松竹系は松林軒、東宝系が岡島、前者では田中絹代の「ある夜の花嫁」、岡島ではエノケンの「孫悟空」を観た記憶がある。いずれも満員の盛況、入りすぎて建物が揺れるとの噂もあった。昭和二十一年(一九四六)七月には電気館、春日館(中央館・後にセントラルとなる)の小野氏経営の二階は現在「こうふアルジャン(旧トボス)」の場所に、また、太田町見付魚現太田町甲府郵便局北東で戦災焼失した甲府東宝劇場は岡島百貨店から現在の中央一丁目春日モールで昭和二十一年に開場した。松林軒から移った松竹は現在岡島デパートに含まれている場所。同年九月に新築開場(銀峯映画劇場、後に松竹映画劇場を隣接して開場)、この銀峯では日本最初の本格天然色映画「高峰秀子主演」カルメン故郷に帰る」の上映があった。さらに現在オリオン通りのパセオのところにオリオンパレス映画劇場が昭和二十一年九月に新築開場し、洋画専門上映館として若者らの観客が多かった。このようにして甲府に映画館が出現していった。

お客様に喜んでいただけることが一番
充実した技術と信頼



新平和通りに店を構えるインテリアさの。その名前から、インテリア用品を扱う店かと思ったが、業務内容は建築内装全般とかなり幅広い。駐車場に並ぶ車もコンパクトカーからワンボックス、さらにトラックと多彩だ。それらの車をよく見てみると、すべてがビスタの車。ビスタ車をこよなく愛する会社ようだ。

「社名は柔らかいんですが、事業は結構ハードなんです。外観工事が終わった後の工事は、設備関係を除いてすべてやっています」と佐野穂社長がにこやかに説明してくれた。

仕事はボード張り、ブースづくり、クロス張り、カーテン、絨毯張りなど実に幅広く、手掛ける建物もビルや住宅、店舗などさまざま。中でもホテルなど不特定多数の人が出入りする大きな建物を得意としているのだそう。

そんな各現場の内容に合わせて車も使い分けているそうで、ビスタ車は

全部で12台を所有。ターセル、ファンカーゴ、イプサム、ラウム、ハイエースなど、どんな場面にも対応できる内容だ。

「ビスタとのつきあいはもう25年になります。車を買って換える時は、いつも迷わずビスタです」。

担当営業マンの山口さんとの信頼関係もしっかりと築かれているようで、「すべてを任せられる安心感がなにより。とても頼りになります」と笑顔で話してくれた。

改正消防法への対応や環境対策、ニーズの多様化など、内装事業者に求められる技術やノウハウも日々変化している厳しい時代。「でもいい仕事をやり遂げた時の喜びは、いつの時代も変わりません。常にお客さまに喜ばれる仕事を提供していきたいですね」と佐野社長。その言葉からは、仕事に対する強い自信と誇りが感じられた。



◆ Data ◆

株式会社 インテリアさの
本社：甲府市伊勢3-7-8
TEL.055-235-8668

住み心地のいい二世帯住宅
自慢の新居で新生活をスタート



閑静な住宅街でひととき目を引く大きな家。どっしりと落ち着いた雰囲気漂う古屋邸が、今回の訪問先だ。

里垣地区の社会福祉協議会長や東光寺東部自治会長を務める古屋賀清さんと、息子さんの政広さんが建てた二世帯住宅は、今年1月に完成したばかり。息子さん夫婦は家の完成を機に、3人のお子さんとともに東京都内から山梨に移り住んだそう。

「3人の孫それぞれに、自分の部屋をつくってあげたくてね」。そんな賀清さんの温かい思いが込められた古屋邸は、家族みんなで何度も話し合いながら、設計から完成まで丸2年を費

まが来ることも多いので、すっきりとした玄関でお迎えしたいと思いましてね」と賀清さん。これもみんなのアイデアから生まれたという。

一階は賀清さん夫妻のスペースで、20畳のリビングダイニングが広がる。朝日が差し込み、冬でも日中は暖房いらずの日当たりの良さ。奥様も「風通しもよく、快適な家なんです」と笑顔で話してくれた。

二階は政広さん夫妻とお孫さんのスペース。お孫さんの部屋のロフトや、廊下の上の屋根裏収納など、考え抜かれた設計になっている。キッチン脇には奥様専用の家事机もあり、家族みんなのニーズがふんだんに取り入れられている。

「トヨタホームなら任せて安心と思いましたが、本当に満足できる家ができました」と賀清さん。営業マンの川口さんとの信頼関係も深く、楽しい家造りができたという。

3世代7人が暮らすにぎやかな古屋邸。家族全員が大満足だという自慢の家には、いつもみんなの明るい笑顔があふれていることだろう。



やした。73坪という広い住居内には、家族の意見が随所に生かされている。玄関を入ると、横に並んだ二カ所の玄関スペースが広がる。入ってすぐの玄関はお客さま用で、家族は左手のサブ玄関を使っている。「お客さ

働きやすい環境づくり

「こんにちは」一。元気なあいさつにとびきりの笑顔で現れたのは、auショップ田富の小池志穂さん。

一昨年から店長としてこの店を任されている。

ここはトヨタビスタ山梨が経営しているショップで、小池さんもトヨタビスタ山梨の社員。4年前に営業所から、この店に配属された。

店長としては三年目を迎えたばかり。「販売だけを担当している頃と違い、店長という仕事は業務全般を把握し、販売戦略を打ち出していかななくてはならないですから大変ですけど、毎日が充実しています」といきいきとした表情で語ってくれた。

店長として心掛けているのは、スタッフみんなが気持ちよく仕事ができる環境をつくることだとか。

「店の雰囲気がいいことが何より。そのためにはスタッフがいつも楽しく働けることが大切だと思います。私自身はかなり明るい性格なので、みんなをその明るさに巻き込んでるんですよ」。その言葉どおり、業務にあたっているスタッフのみなさんとてもいい笑顔だ。

携帯電話の販売はブランド間競争はもちろん、ショップ間の競争も激しいことで知られる厳しい業界。新しいサービスや機能も次々と生まれているだけに、苦勞も多いと思うが。「確かに勉強の毎日ですね。他社と比較されることも多いです。でもこの店の雰囲気やスタッフを気に入っていただいて、何度も来店してくださる方も増えています」とにっこり。時には自分より機能やサービスに詳しいお客さまもいるそうで、お客さまから学ばせてもらうことも多いのだという。

これからが腕の見せどころ

そんなお客さまとのいい関係づくりもあり、販売台数は順調に伸びているのだとか。今では小池さんご指名で来店してくれるお客さまもいるそうで、笑顔にもますます磨きがかかる。

「2年がたって、やっと店長という仕事に慣れました。これからが本番です」とはりきる小池さん。今後の目標を尋ねると、「この明るさを武器に、今以上に雰囲気のいいお店にしていきたいですね」と力強い言葉が返ってきた。

小池さんの笑顔を見ていると、こちらまで思わず微笑んでしまう。人を幸せな気分にしてしまう、魅力的な笑顔だ。いつまでもその笑顔と明るさを大切に。



魅力ある 店舗づくりを支える とびきりの笑顔

auショップ田富店長

小池 志穂さん（市川大門町）

介護保険情報

介護保険ABC



【3】要介護認定とは…？

市町村に要介護認定の申請をし、訪問調査が終了すると、実際に要介護度が判定されます。要介護度は①介護が必要かどうか ②どのくらい介護サービスを行う必要があるのかの2点を、コンピュータや訪問調査マニュアルを使って公平に判定されます。要介護度は「要支援」から「要介護度5」までの6段階に分かれますが、基本的には介護に費やす時間が長いほど要介護度は高くなります。またこの要介護度に応じて、利用できるサービスの限度額が決まります。

☆やさしい手甲府のホームページで、おおよその要介護度を調べることができますのでお試しください。

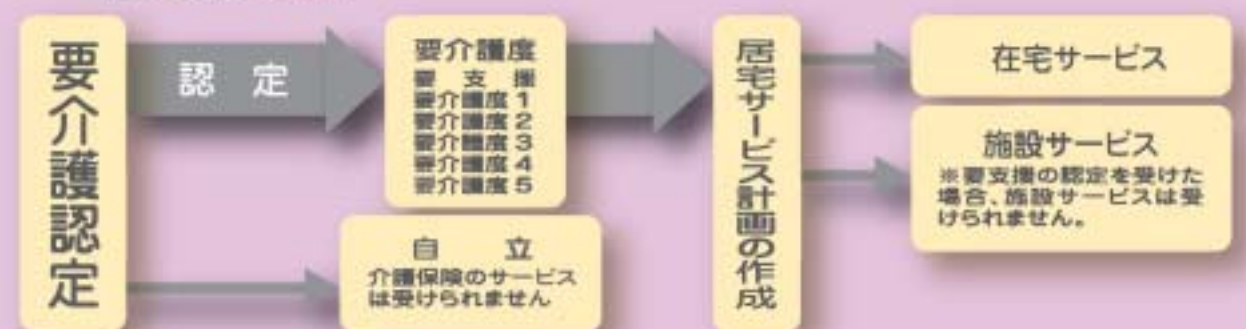
<http://yasashiite-kofu.co.jp>

【4】ケアプラン（居宅サービス計画）の作成

要介護認定を受け、要介護度が判定されたら、介護支援専門員とご利用者・ご家族でその方が必要とする介護サービスについて話し合い、支給限度額の範囲内で利用計画を作成します。（利用者負担はありません。）介護支援専門員はご利用者本人やご家族と面接し、抱えている問題点や解決すべき課題を分析し、1人ひとりのニーズに合った個別サービス計画でケアの基本方針や目標、サービス内容などを決定します。

※介護支援専門員とは、ケアマネジャー。保健・医療・福祉サービスで一定の実務経験があり、試験に合格した後、実務研修を修了した人が担当します。

<要介護認定まで>



☆次回は、在宅サービスの利用と利用料支払について。

おやおや困ったどうしよう？/こんな時お電話ください。



高齢者のための相談窓口

安心電話

055-232-0808

www.arms-net.com/anshin/

おやおや
『安心電話』055-232-0808

『安心電話』は、高齢者に必要な介護・住まい・外出・食事など在宅生活の心強いパートナーです。お電話1本で相談に応じ、サービスのご紹介をいたします。登録に際しての費用は一切かかりません。いざ！という時のために、ぜひ登録ください。会員登録者には、『安心電話』の電話番号のステッカーと詳しい説明資料をお送りします。

<『安心電話』は協同組合山梨安心サービスが提供しています>

<http://www.arms-net.com/anshin/>

※山梨安心サービスの事務局が移転しました。

〒400-0031 甲府市丸の内1-21-7 武蔵ビル6階 TEL:055(231)6632 FAX:055(231)6634

介護保険に関するご相談は TEL055(231)6633

在宅介護のヒューマンケアサービス
やさしい手甲府



<http://www.yasashiite-kofu.co.jp>

世界の酒と人に
出会えるバー

THE VAULT

ザ・ヴォルト



岡山隣の武藤ビルの一階にあるここは、オーストラリア人が経営するオーストラリアスタイルのバー。広い空間で、のんびりとお酒と食事を楽しむことができる。

店内は黄色い壁に、木目のテーブルと椅子を配した温かい雰囲気。コーナーに置かれた真つ赤なソファも印象的だ。カウンター前には世界各国の酒がずらりと並ぶ。十四カ国三十二種



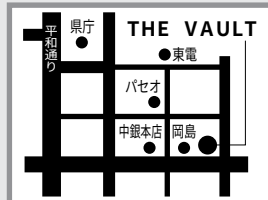
料理はサラダ、パイパー類、ピザ、スパゲティ、オムレツなど。中でもおすすめはベーコンと玉子が入ったオージーバーガー（一〇〇〇円）やオージービザ（九〇〇円）

類のビールをはじめ、スコッチ三十三種類、パイパー二十六種類など、甲府ではほかにない品揃えだ。

円、玉子と赤カブの入ったオージーサラダ（五〇〇円）などオージースタイルの料理。

チャージはなく、酒は五〇〇円～八〇〇円が中心。食事も七〇〇円～一〇〇〇円で楽しめる。とあって、リピーターも多いとか。月に一回はライブも行っていて、パーティーや結婚式の二次会なども受け付けているそう。外国人の利用も多く、世界各国の人と出会えるのも魅力。おいしいお酒を飲みながら、ゆったりとした時間を過ごしてみよう。

営業時間
日～火 18:00～24:00
水～土 18:00～2:00
定休日 年中無休
所在地 甲府市丸の内1-21-7
武藤ビルB1
TEL055-237-0944



ファッションプラザ ちの

質の高い商品を
手ごろな価格で提供



昨年十月に、六郷町にある本店の二号店としてオープンした。白い外壁がひときわ目を引く店舗に入ると、百五十坪という広い売場が広がる。十代から年配まで幅広い層の女性服を扱っていて、「いいものを安く」をコンセプトに、質の高い商品を手ごろな価格で提供している。

明るい店内にはニットやブラウス、スーツ、スカート、パンツなどの服をはじめ、バッグや帽子、ハンカチといった小物も揃っている。なんといってもその魅力は価格だ。千九百円から二千九百円の商品が中心で、ブラウスなどの単品はもちろん、スーツもこの価格で手に入れることができる。

手ごろな価格というだけでは足りない。これらの商品は本来、二万円



前後で販売されているものだというから驚きだ。独自の流通により、いい品を安く提供することができているそうだ。

中には、巷には流通していない個人デザイナーの商品もあるそう。1点ものを求める人に人気が高く、常連のお客さまも多いのだとか。

同じ商品を数多く販売するのではなく、商品の回転も速いので、いいものを見つけるにはお店に通ってもらうのが一番とのこと。ぜひ一度、のぞいてみてはいかが。

営業時間 10:00～20:00
定休日 月曜日
所在地 南アルプス市東南湖942-1
TEL055-280-2065



ボーダレスな社会（今回のキーワード） 株価と為替レート

×月×日

株式相場が堅調に推移している。株価の上昇は、円高防止の介入と関係があると言われているが、どうして円売り・弗買い介入が株式相場を上昇させることとなるのだろうか？

株価に影響を与える要因を挙げると以下となる。

①円高が妨げられる（円が弱くなる）事によって輸出企業の業績見通しが改善する。日本の基幹産業は輸出産業なので、業績見通しの改善は、株価の上昇を呼ぶ。

②将来の円高を当てこんで、外国人機関投資家による株式の購入が実行される。

③介入によって購入された弗が米国の債権市場に投入されることによって米国株式市場が弱含みとなり、日本の株式市場に注目が当てられる。

現状において①および②は、実態に影響を与える可能性が高く、③は、間接的であるが、投資家の心理に影響を与えることによって、ある程度の日本株式市場の好調に寄与していると考えられる。

経済（金融論）の教科書ならば、このへんからさらに「不胎化政策の是非」「インフレ期待」といった項目に進んでゆくこととなるが、ここで言いたいのは

はそんな理論ではない。簡単に言うなら「本当に経済はボーダレス化が進んでしまったのだなあ・・・」という感想である。①の要因は20年前1980年の半ばにおいて経験した円高の逆で古典的な現象と言いう事ができる。しかしながら②および③において重要なのは海外の投資家なのである。

現在の日本は財政赤字にあり、かつ多量の米国債を保有する債権国でもある。これは直感的に「将来のインフレ圧力」を意味する。しかしながら「インフレは全ての財を公平に襲う」訳ではなく、かつての経験のように「株式・不動産のインフレ＝バブル」とか「日常品・必需品のインフレ＝政府の崩壊」というのが歴史的なストーリーであり、価格が上昇する財は限られる。従って、ブームとなる財・サービスを予見することが最も重要になってくる。

ボーダレスという事を考えると、近い未来に価値が上昇するのは日本の文化・芸能といった部分かもしれない。（そういえば、アカデミー賞も好調だったし。）馬鹿正直にとると、外国から日本に観光に来る人をターゲットにする事業等が有望という事だろうか？（笑）

裁判員制度

×月×日

日本に民間からの裁判員制度が導入されると言う。はっきり言って自分が指名されたらちょっと怖い。昔アメリカで友人と陪審員制度のことを話していた時に、彼は「自分も一回当たった。多分一生に一回くらいは当たるのだろう・・・」と言っていた。彼は陪審員となったことを、極めて当たり前の義務として捕らえていた。しかしながら私の場合は、恐怖が先に立つ。

10年程前、アメリカの著名弁護士が陪審員制度について講演をした時に、同時通訳として駆けり出された。専門用語が判らないので大変な通訳であったが、その講演の中で非常に印象に残っているフレーズがある。彼は、陪審員制度には様々な欠点・弊害が存在することは明らかであるが、「それでもこの制度には、不正や偏見を排除する為の見えざる力が存在する」と言っていた。

そう言われれば、「12人の怒れる男たち」という古典映画を観たことがある。確かに多民族国家において正義ある裁判を実行する苦しみは並大抵ではないだろう。どんな人間でもルーツ（バックグラウンド）が異なった他人には偏見を抱きがちである。日本に住む在日中国人などアジア人に対して、日本人が全く偏見を持っていないと言ったなら嘘になる。現実には、そういった差別・偏見に基づいた悲しい事件が過去に起こっている。

多様化・ボーダレス化してきた日本の社会には、裁判員制度のような不正や偏見を排除する力が必要な時代が訪れたのであろう。それでも私個人としては、「遠山の金さん」や「大岡越前」のような、「お上の名裁き」の方が好ましく思えてしまう。数百年にわたって形成された、「日本的なもの」がそうさせるのであろうか？

〔文：杉村 聡〕

日本武尊東国征伐凱旋の道

—若彦路—



八代町地内



天神峠付近、昔の面影が今も残っている…

若彦路は甲斐の国と京の都や鎌倉とを結ぶ官道で、甲斐九筋の一つである。この道は日本武尊が東国征伐の帰途、甲斐に立ち寄った凱旋の道と伝えられている。若彦路の名は日本武尊の息子、稚武彦王に因んでつけられたと言われている。その道筋は、甲府を発し、酒折から東南に向かい、小石和、竹居、奈良原（八代町）を経て、御坂山脈の鳥坂・大石の二つの峠を越え、富士西麓、天神峠へと進み、駿河の上井出（富士宮市）で中道往還（駿河と甲斐を最短距離で結ぶ道、魚・塩の輸送路であった）と合流するものだ。沿道には遺跡、古墳群、史跡、神社仏閣、奈良原の里等の歴史的文化遺産が数多く、また自然も豊富で、自然と歴史の宝庫ともいえる道である。現在、八代町から芦川村に抜けるまでは整備された広い道になっている。今回はこの沿道の見所の中から小山城跡、花鳥山、広済寺を紹介する。

— 小山城跡 —

八代町高家の小山城跡は浅川に

形成された扇状地北端にある小丘を利用して構築された高さ2～3mの土塁と、深さ2～3mの空堀がめぐる東西120m、南北130mの武田時代の城だ。大永3年（1523）、城主穴山伊予守は、鳥坂峠を越え侵入してきた南部下野守と花鳥山で戦い、その後、小山城に籠もり防戦したが利あらずと、常楽寺に落ち自刃したという。以来、城は南部氏によって守られた。のちの天正10年（1582）、甲斐における「天正壬午の戦い」では、徳川家康が臣下の鳥居彦右衛門に修築させ、騎馬130、雑兵600人をもって守らせたと伝えられる。眺望のよい観桜の名所として知られる城跡で、現在、八代町指定史跡となっている。

— 花鳥山一本杉 —

八代町と御坂町の間に位置する花鳥山に巨木の一本杉がある。大人6人がかりで手をつないでやっと囲めるほどの大樹で、御坂町・八代町指定天然記念物になっている。この杉は、「日本武尊が休息した時、杉箸を地面にさし、それが根付いた」伝

説のように、元々二本の幹が合着して一本になったもので、中は空洞だが樹勢は今も旺盛だ。ここ花鳥山からは甲府盆地や南アルプス連峰が望め、桃の時期には見渡す限りピンクの絨毯となり、桃源郷の世界へと変幻する。古くから文人の間では歌枕の里として知られ、杉の下には御坂町生まれ、一瓜の句碑「一木づつ 奥ある花の 山路かな」が建っている。

— 広 済 寺 —

八代町奈良原の広済寺は、応永17年（1410）、武田信春が向嶽寺3世・峻翁令山の教えを受け継いだ虎溪道竜和尚を開山に迎え創建した臨済宗の古刹で、代々国守に厚く保護され栄えてきた寺である。山門左側のヒイラギは、県下まれに見る種類の巨樹として町の指定天然記念物になっている。参道は約200mの上り坂になっており、後方右手には甲府盆地が見え、静かでのどかな雰囲気、眺めも良い。白梅が咲く参道は趣に艶を添えてくれる。

（写真：若林賢明）